

経鼻内視鏡にナイフ がん切除高周波処置具

山科精器

の2種類用意し、がんの位置によって使い分ける。処置時の視認性を高めるため、同社製品としては初となる黒色マーカーをチューブ先端に取り付けた。

山科精器は自動車産業向けの工作機械や船舶産業向けの熱交換器などを手がける。主力事業で培った微細加工技術を応用し、2009年に医療機器事業に参入。高周波処置具などのラインアップ拡充により、全体の売上高に占める医療機器事業の割合を、23年度には現状比約2倍の10%に高めたい考え。



【大津】山科精器 内視鏡に対応した高周波処置具を開発、市場投入した。内視鏡的粘

開発したがん切除用高周波処置具（黒い部分）は内視鏡。製品は内視鏡から出てくる白いチューブ

膜下層剝離術（ESD）に用いる器具で、チューブ最大外径を従来品の2・75ミリから1・95ミリへ細径化。同社によると経鼻内視鏡に対応するESD用ナイフは世界でも珍しいという。消費税抜き価格は1本2万6000

円。初年度に1000本の販売を目指す。

ESDは高周波処置具を内視鏡に取り付けてがんを切除・剝離する治療法。新製品「エンドセイバー ファイン」は従来品よりもチューブを細くし、がんなどで消化管が狭窄している部分にも処置できるのが特徴。

ナイフ部分の長さを1・5ミリと2・0ミリ